

**エネコートテクノロジーズ、総額 55 億円のシリーズ C ラウンド資金調達を実施**  
太陽電池サプライチェーンの多様化、IoT デバイスやモビリティ・アプリケーション  
をサポートするペロブスカイト太陽電池独自技術の開発を加速

株式会社エネコートテクノロジーズ（本社：京都府久世郡久御山町、代表取締役 加藤尚哉、以下「エネコート」）は、第三者割当増資により総額 55 億円のシリーズ C ラウンド資金調達が完了したことをお知らせいたします。トヨタのグロスステージ・ファンドである Woven Capital が本ラウンドのリード投資家を務め、新規投資家として株式会社 INPEX や三菱HCキャピタル株式会社、既存投資家からはスパークス・アセット・マネジメント株式会社が運営する未来創生 3 号ファンド、京都大学イノベーションキャピタル等が出資を行いました。今回の増資により、累計調達額は 80 億円を超えました。

今回の調達資金は、生産・販売体制の構築および事業拡大や、太陽光発電のサプライチェーンの多様化、IoT デバイスの広範なサポート、新しいモビリティ・アプリケーションの高度化活用が可能なペロブスカイト太陽電池技術の開発加速に活用されます。また、Woven Capital のパートナーである加藤道子氏がエネコートの社外取締役に就任します。

ペロブスカイト太陽電池技術は、従来のシリコン電池を今後数年で上回る効率を達成できる可能性を持っており、近年注目を集めています。また、低照度条件での発電、薄型、軽量、柔軟といった特徴を持ち、ヨウ素を原材料としていることから、大量生産した場合に従来のシリコン電池の数分の 1 の価格となる試算もあり、画期的な技術と見られています。

エネコート代表取締役である加藤尚哉は、次のように述べています。  
「私達は、ペロブスカイト太陽電池を最も重要な電力源とするために尽力し、カーボン・ニュートラルを達成と持続的なエネルギー問題解決に取り組んでいます。今回の資金調達を活用して、日本を代表する企業との協業を加速し、世界の脱炭素化目標達成に必要な次世代太陽電池技術を進展させ、今後拡大していく需要に応えてまいります。」

Woven Capital パートナーである加藤道子氏は、次のように述べています。  
「エネコートは、シリコン型太陽電池に代わる選択肢として、ペロブスカイト太陽電池を実装するにあたって、多大な可能性を秘めています。同技術は、日本に戦略的価値をもたらす次世代技術として、広範な活用方法が期待されています。従来型電源への依存を減らし、エネルギー・インフラを変革するエネコートの取り組みは、持続可能な未来に向けた私たちのビジョンと一致しており、私たちはエネコートのさらなる飛躍を楽しみにしています。」

他の投資家は、次のように述べています。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 取締役次世代成長投資本部長 出路貴規氏

「軽量で柔軟性に優れたペロブスカイト太陽電池は設置場所の大幅拡大が期待できるため、カーボンニュートラルの実現に寄与する高い潜在力を有しています。ペロブスカイト市場は国内外で競争が激しくなっている分野です。しかしながらエネコートは高い材料設計・加工技術を武器に業界を牽引できると確信し、追加出資をさせていただきました。今後もペロブスカイト太陽電池の社会実装を推進すべく、エネコートを全力でサポートして参ります。」

京都大学イノベーションキャピタル株式会社代表取締役 楠美公氏

「エネコートテクノロジーズのシリーズ C が成功裏に完了したことを嬉しく思います。同社が開発に取り組んでいるペロブスカイト太陽電池は脱炭素社会実現の切り札となり得る技術であり、今回の資金調達により実用化が加速することを期待しています」

株式会社 INPEX 常務執行役員 栗村英樹氏

「エネコートが開発に取り組んでいるペロブスカイト太陽電池は再生可能エネルギーの普及促進につながる技術であり、今回の資金調達により量産化に向けた取り組みが加速することを期待しています。当社は、同社の取り組みに合わせ、原料となるヨウ素サプライチェーンの取り組みを強化してまいります。」

他にも、三菱 UFJ キャピタル株式会社、三菱 HC キャピタル株式会社、日揮みらいファンド、京都キャピタルパートナーズ株式会社、新明和工業株式会社、西松建設株式会社、中国電力株式会社、伯東株式会社、中信ベンチャー・投資ファンド 6 号投資事業有限責任組合が本ラウンドに参加しています。

太陽光発電は、世界が気候変動対策に取り組む中で急速に拡大しており、2023 年から 2032 年にかけて年間 17% の成長率を達成し、市場規模は 5,080 億ドルになるとの予測もあります<sup>1</sup>。エネコートの技術は、技術を様々な用途に活用していくにあたって、日本を代表する企業との協業を進めており、高い評価を受けています。日本では、平坦な土地が限られていることや、ペロブスカイトの原料が豊富なことから、ペロブスカイト太陽電池の技術開発が推進されています。

注釈：

1 Precedence Research 社レポート（2022 年）

### 【エネコートについて】

エネコートは、京都大学化学研究所若宮淳志研究室の研究成果を実用化するために 2018 年に設立された京都大学発スタートアップで、ペロブスカイト太陽電池技術の開発に取り組んでいます。IoT やモビリティ用途向けの軽量薄膜太陽電池の技術に強みを持ち、NEDO のグリーンイノベーション基金事業にも採択されました。エネコートは、脱炭素の未来に向けたエネルギー利用の革新を目指しています。詳細は [enecoat.com](http://enecoat.com) をご参照ください。

### 【Woven Capital について】

Woven Capital は、トヨタのグロース・ステージ・ファンドであり、人、モノ、情報、エネルギーのモビリティの実現に向けた投資を行っています。グローバルな投資チームとして、世界中のイノベーターとトヨタをつなげる役割を担っています。2021 年の設立以降、8 億米ドルのファンドを運用し、自動化、エネルギー、電動化、車両の知能化、コネクティッド・シティ等の領域に投資を行っています。詳細は [woven.vc](http://woven.vc) をご参照ください。

以上